

## 今後の都市デザイン行政について

### 1 概要

シンポジウムでは、取組のための体制作り及び新しい着眼点について様々な意見が出されました。環境問題や災害に対する安全性の確保、都市の骨格となる物流や産業などについて、取り組むべきテーマが示されました。

これらは、既に行政において検討を始めているものもあり、都市デザインの視点を加え、よりよい成果を求めていく必要があります。

そこで、それぞれのテーマの最新の研究や活動について専門家、活動家などから話を伺い、今後取り組むべきテーマについて検討しています。

### 2 シンポジウムでの議論

(都市美対策審議会 113 回資料の再掲)

#### (1) 概要

- ア 件名 横浜の都市デザイン活動の40年とこれから
- イ 日時 平成23年7月30日(土) 13:00-16:30
- ウ 場所 ヨコハマ創造都市センター3F
- エ 参加者 学識経験者、専門家、市民、行政職員など 168名(うち聴講者118名)

#### (2) 議論の内容

##### ア これからの都市デザインに求められること

###### ○コミュニティとのかかわり

- ・人間同士のつながりをつくっていく役割があるのではないか
- ・都市は住む人々のためのものであり生活が中心、投資対象ではない
- ・地域経営のプロとしての市民と空間づくりの専門家、行政のかかわり方
- ・専門家にはハードとソフトの両方を統合していく力が必要
- ・市民が主役で専門家や行政がサポートし地域をマネジメントする仕組みづくりも重要

###### ○多様な議論の継続

- ・かつてより多様な要素が重なってきている
- ・都市デザイン以外の専門性を持つ人々との議論や交流が必要

###### ○推進組織

- ・企業、専門家、行政が連携しかつ自由に活動できるように、行政外部に専門性を持った組織が必要(海外に複数事例がある)
- ・かつてのUDCY(アーバンデザインセンター横浜)のような組織があると良い
- ・日本においては、外部の専門家組織よりも専門家や市民がネットワークを作り事業を作っていく組織があるべきではないか

##### イ 横浜の都市のあり方に関すること

- ・環境問題には、エネルギーデザインが鍵となり、個別に対処するのではなく都市の作り方やインフラなど都市構造のデザインによって対応していくべきである
- ・天災に対する安全性の前提があり、そのうえで楽しい、美しいまちであることも重要
- ・都市の根源でありながら少し離してきた産業や物流をどうしていくのか
- ・50年後のような長期を見すえた計画は、専門的かつ先鋭的に考えるほかない
- ・六大事業を引き継ぐような新六大事業とは何か

##### ウ 今後の取組

- ・市民、専門家、企業、大学の連携・交流によって広く英知を集め、観光、文化など様々なテーマに対し、新しい都市像を提案・提言していく
- ・人と人とのつながりを豊かにしていくため、地域の魅力を高めていく実践的な都市デザインを強化していく

(裏面に続く)

### 3 ヒアリングの実施

- (1) 苦瀬 博仁 (くせ ひろひと) 氏  
東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科 教授  
(元) 横浜港長期ビジョン検討調査委員

[ヒアリング内容] 都市を支える物流

- ・都市計画では人間の動きについては研究が進んできたが、人間を支える食糧や日用品を運ぶトラックの動きは検討されていない
- ・具体的な建築計画でもトラック駐車や荷さばき、ビル内での移動などが考慮されず、結果として人間が活動しやすいまちとなっていない事例が多い
- ・いくら建物をデザインし歩道の舗装を工夫してもトラックがたくさん通り駐車される場所はそれでよい景観というのか
- ・物流は骨格、表面に見えないように仕組みをデザインするものであり、このようなプロの仕事は市民に分かりにくいかもしれないが、長期的な視点の業務として進めなければならない

- (2) 三輪 律江 (みわ のりえ) 氏  
横浜市立大学大学院(国際総合科学群) 准教授  
大学コンソーシアム横浜、都市マス改定委員、建築審査会委員

[ヒアリング内容] 少子高齢化、都市の縮小化

- ・多世代で居住できるまちを継続させることが重要で、「同居でなく近居」や少ない世代の呼び込みなどいろいろ方法があるので、選択肢があることが大事
- ・子育ては親へのサービスではなく子どもが地域で生活していくことが重要で、子どもへのサービスであるといったことや、郊外の住宅地は戦略的にすすめることで魅力的なものになる可能性がある
- ・都市マスの委員会の議論でも、概念的なコンパクトシティでなく、横浜型コンパクトシティを考えるべきだという意見が出ている
- ・これまで郊外は環境の良さで選択されてきたが、これからの子育て世代がどういう選択をするのか
- ・ニーズは、直近の状況に応じた意見なので、行政はニーズだけを聞いてはだめだ。

- (3) 佐土原 聡 (さどはら さとし) 氏  
横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授  
横浜市経営諮問委員

[ヒアリング内容] エネルギーデザイン

- ・環境問題を日々の暮らしの問題にとらえ、前向きに将来を考えて今から改善策に手をつけ、それがまた自分たちの生活にプラスとなるという実感をもつことで市民の行動も呼び起こしていくことでなければ、解決していかない。  
そのためには科学的根拠を整理して戦略を立ててはじめる必要がある。
- ・人口が減少したり集約されていくようになると空地が広がってくるが、そこをいかして生態系や水の確保のようなことをどのように行っていくかを考えなければならない
- ・都市は中山間地域や国外の資源を使って成立していることを意識し、双方が質の高いものであり続けるしくみを考えなければならない